

# 篠塚「おれも1台欲しい！」

## A73型ランサーに大興奮

1970年代にラリーで活躍した三菱自動車の「ランサー1600G SR（A73型）」のオーナーの集いが27、28の両日、山梨県・清里町の苗木の村で行われた。同車をラリー仕様にしたレプリカを持つオーナーたちが、当時の三菱ワークスドライバーだった篠塚建次郎を招き、ラリーやクルマ談議に花を咲かせるというもので、記念すべき第1回に集まったのは、福島県や石川県、静岡県、和歌山県から自走してきたという8台。

いずれも当時の三菱ワークスラリーカー仕様でチューニングが施されている抜群のコンディション。76年のサファリラリーでは、世界ラリー選手権（WRC）初出場で総合6位になった経験を持つ篠塚は「こんなに小さかったんだあー。でも、

丈夫で強かったよ」と懐かしそう。そして「36-37年前のクルマなのにカッコ良い。おれも1台欲しい！」と、衝動を抑えきれない感じだ。

A73型と呼ばれるランサーは、現代のランサー・エポリューションの元祖となる名車。73年2月に発売され、国内ラリーで大活躍して臺州のサザンクロスラリーに出場、74年のサファリでは地元ドライバーが三菱のWRC初勝利を飾った。今でも数多くのファンがあり、篠塚&ランサーの集いは毎年6月の第3週末に開催することが決定した。

（飯島俊行）



①ランサーA73のオーナーたちに招待された篠塚（左端） ②早速ドライブした篠塚はその魅力に感動していた（飯島俊行撮影）